

令和7年度 第3回湖南省文化財保護審議会 議事録

日時	令和8年2月19日(木) 14:00～:16:00
場所	湖南省共同福祉施設(サンライフ甲西) 2階大ホール
出席者	【委員】7名 【事務局】野崎次長、谷口課長、堤課長補佐、滝主査、守武主任技師
議題	●報告事項 埋蔵文化財調査 ●協議事項(1) 湖南省文化財保存活用地域計画について (2)(3) 審議事項につき非公開 ●その他
傍聴者数	0
担当部署 (事務局)	湖南省環境経済部 商工観光労政課 文化財振興係 TEL:0748-71-2331

●開会のあいさつ

●報告事項 埋蔵文化財調査

(事務局)

個人住宅の開発に係る試掘調査を2件実施(尊光寺遺跡、片山遺跡)。いずれも遺構・遺物は確認されず、予定通り工事着手を許可した。

(委員)

三雲の埋蔵関係は出土しなかったか。

(事務局)

確認されなかった。

●協議事項(1) 湖南省文化財保存活用地域計画について

(事務局)

2月9日(月)に第6回目の協議会を開催し、すべての章について内容を協議した。また、素案第3章、5～8章の内容をまとめた概要版を作成した。こちらは計画の認定申請時に提出するものとなる。

今後のスケジュールについて、3月に議会委員会で説明、4月中旬からパブリックコメントを実施。7月中旬以降に再度この場でお諮りし、完成した素案を8月中旬に文化庁へ提出する。

(委員)

素案p15の地図中に年号の間違ひがある。昭和33年は1985年ではなく1958年。年号や地図の位置関係などが正しいかどうか、事務局での細かいチェックが必要。またp40の「人々は、自然に神の存在を信じ、～」について、「自然に」が「当たり前」の文意にとられる可能性がある。「自然の中に」などとしてはどうか。

(委員)

p 15 の地図について、下田地域の範囲は合っているか？飛び地になっているところがある。正確な境界は区長などに確認すればわかるかと思う。

→飛び地については問題はない。

(委員)

p 3 「文化財の定義」について、学術的なことを中心に書いており、「今後の市民に対して文化財が担う役割」のような位置づけの記述が不足している。古い例だが昭和 20 年代に奈良国立博物館で正倉院展を開催した時には、戦後の復興で苦しい時期にもかかわらず多くの人が集まった。文化財は、そのような有事の際にも人が生きていく気持ちの指針になりうる宝である。

滋賀県の小学校では琵琶湖の船上学習をしており、他府県の人に話すと羨ましがるといのもよく聞く。県民にとっては当たり前のことかもしれないが、そうして定着したものを文化財を活用して掘り起こす、それが郷土への思いや誇りになる、というような内容もあるとよいと思う。

(事務局)

定義の件については前回の地域計画協議会でも議題となり、「これから市民として発見していく」という内容を入れるべきでは、という意見が出ていた。会長副会長と協議をしているところ。

(委員)

指定文化財の所有者はリスト化していないか。個人情報にあたるので載せるのは具合が悪いかもしれないが、数年後に事務局の人員が異動していても把握できるようになっているか。

(事務局)

掲載はしていないが内部資料としては持っている。

(委員)

文化財担当課が教育委員会部局に移る件について、県内では首長部局に移る市町が多い中なぜ逆行して戻るのか、何か理由があれば教えてほしい。

(事務局)

事務局でも詳しい流れは把握していない。

(委員)

- ・社会教育審議会で資料館等の活用について、専門の職員がいないことが指摘されることもあり、教育委員会でもその必要性が認識されたのでは。
- ・博物館資料の扱いに関して、首長側からの意見に教育長が逆らえなかったような事例もあった。教育委員会に戻るのであれば、教育行政と政治行政の違いを明確にしたうえで連携を図ってほしい。

(委員)

- ・計画素案中に江戸時代の宿場や街道のことは書いてあるが、岩根の旧道、鎌倉古道的な要素も記述がほしい。

- ・ p 25 で、明治時代に関西鉄道が通って物資の輸送が活発化したと記述があるが、それ以前の輸送はどうしていたか。野洲川の恵みを特性のひとつに挙げていることもあり、触れておきたい。
- ・ 方言や食事の文化なども野洲川の南北で違っている。横田の渡しや中郡橋など、それらをつなぐ要素についても入れていただきたい。
- ・ 農産物の輸送が活発化したというのは、農業生産力が近代になって向上したのか、元々多く生産していたのを輸送手段が発達したため大量に輸送できるようになったのか。それ以前は水運を用いていたのか。京都では琵琶湖疎水が引かれたことが近代化に大きく貢献した、そのような文脈で近代化遺産を位置づけられると説得力が出ると思う。
- ・ 京都や大津で消費が増えるので出荷が盛んになるというのは考えられるが、それが明治の鉄道開業によって大きく変化したのか、鉄道が通るだけでどこまで変わるものか。市町村沿革史の5巻で物産誌の近世比較の記載もあるので生産量比較などできるかと思う
→朝国しょうがは出荷が多かったと聞く。水利の関係でいうと、湿田が乾田化したのが昭和40年代ごろ。

●協議事項（2）

【審議中の案件につき非公開】

●協議事項（3）

【審議中の案件につき非公開】

～終了～